

柳田 泉（やなぎだ・いずみ）

1、プロフィール

近代文学研究家、英文学者。和・漢・洋にわたる造詣を持って資料を博搜し、実証的な明治文学研究に大きな足跡を残し、後進にも広く影響を与えた。

<生没>

1894(明治 27)年4月 27 日 ~ 1969(昭和 44)年6月7日

<代表作>

『政治小説研究』『明治初期の翻訳文学』『明治文学研究』

<青森との関わり>

中津軽郡豊田村(現弘前市)に生まれる。

2、作家解説

明治 34 年、外崎小学校に入学、その後、叔母の嫁ぎ先樋口氏に引き取られ、その一家転住に従い、青森さらに黒石町へと移り、黒石小学校に転校する。38 年、生家に帰り玉成高等小学校に入学、紅葉、露伴、蘆花などの文学に親しむ。東奥義塾、青森中学校を経て大正 3 年、早稲田大学文学科予科、4 年同本科(英文科)へと進む。

大学在学中、金子筑水、長谷川天溪に接したことが、明治文学研究に進む端緒となる。7 年大学卒業、春秋社のトルストイ全集の訳者となり、内田魯庵、木村毅を知る。翌年から翻訳に専念、ホイットマン、ソロー、メレジコフスキーなどの著書を翻訳、出版。11 年カーライル全集の翻訳に着手。

大正 12 年関東大震災に際し文献の喪失に衝撃を受け、明治文学研究に専心することとなる。13 年発足の吉野作造・宮武外骨らの明治文化研究会に加わる。

この頃幸田露伴、三宅雪嶺を知り、後の研究の一契機となる。

14年『明治文化全集』の企画に参加、昭和2年東大法学部明治新聞雑誌文庫の集書開始に伴い、閲覧を許され、三千余種の新聞等を整理、後の研究の布石となる。

この間、トルストイ『人生論』ディケンズ『二都物語』、『世界大思想全集』の訳業の印税により生計を立てる。

7年明治文学会の顧問、10年明治文学談話会世話役となり、後進を指導。

昭和10年代『明治初期の翻訳文学』『政治小説研究』上・中・下の名著を完成、さらに戦後、『明治文学研究』（九巻で中絶）に再構成されることとなる。

3、資料紹介

○『操高松千尺』

書画（短冊）

1947（昭和22）年12月19日

362mm×60mm

「操高松千尺」と墨書し、昭和22年12月19日筆と右側に小さく記し、柳田泉と署名する。